花背モニタリング３月報告　-2021 年初回調査-

日時　2021 年 3 月 19 日（金）
場所　花背別所　HANA-Re
天気　はれ
参加者　９名　川勝（主催者）

セリバオウレン

花脊の雪解けは２月に終わり、植物はこの時を待ち開花を始めていた。セリバオウレンの白い花が HANARE の庭や崖に咲き誇っていた。雌雄異株だが両性花の花もあるとの説明でさらに花をよく観察する事が出来た。見過ごしてしまう事も一つのアドバイスでその特性が見えてくる。「あっ！違う。これが両性花だ！」ルーペで見ると花火をみるような見事さだった。湿った崖の下にクリンソウがその存在を主張し、丈を伸ばしていた。イヌツゲは変わる事なく鎮座。ミツバツチグリの黄色の花を開きかけている。ネコノメソウ、白い花のミヤマカタバミ、オオタネツケバナ、カキドオシと続く。

尾根道に向かうその崖にヤブコウジの赤い実が目をひいた。ヤマナシの葉を昨年初めて知ったので、花を期待していたが開花にはまだ遠かった。「まず、下の花が咲いて、次に木の花が咲く。」そう説明を受け大きな自然界の一端を知った。シキミが淡い黄白色の花、アセビは白い花をつけていた。スイバは赤い小さな矢じり型で夏の姿からは想像も出来ない愛らしさだった。ジャムも作れるとの事でした。鳥が種を運んだのかユズリハはあちこちに点在し、その中に黄色の花を咲かせたミツマタがあった。えっ？12 月の時は葉のような物がついていたのに。そう思ったのは苞で冬の間に落ちたようだ。マルバフユイチゴ、キランソウが太陽の陽をあびて輝いていた。イヌブナ・ホオノキの芽吹きはなく落ち葉がその存在を知らしめた。

モミ？ツガ？はっきりしない枝が無数に落ちていた。この日は２グループに分かれ観察したが、お昼の時合流し再度議論になった。宿題を頂いた。

ボタンネコノメソウ

谷に下りる。コウヤマンネングサが出迎え、ミヤマカタバミ・キタヤマブシはその存在を生き生きと地上に表していた。今日の最大の課題はボタンネコノメソウである。中心の色が赤褐色のボタンネコノメソウ。よく見ると葉

の形が少し細長いボタンネコノメソウに似たのがあった。これがボタンネコノメソウなのか開花していないのでそれ以上の事はわからなかった。トウゲシバをじっくり見ていたら、ヒルもこちらに伸びてきていた。アスナロの分厚い葉は存在感がある。ネコノメソウ、マルバフユイチゴ、オオチドメと続きまだ冬芽のウリハダカエデを見て谷を上がる。

畑には、暖かい陽をあびたオオイヌノフグリが瑠璃色の花を咲かせ春を告げていた。ゲンノショウコ・ウマノアシガタ・ヤマネコノメソウ・チャルメルソウ・ヘビイチゴはそれぞれ自分の場所をしっかり確保していた。コハコベはわが世の春と言わんばかりに茎の下から生き生きと枝を出しその先に小さな白い花をつけていた。

春　芽生えようとする草花に安らぎと、明日へ向かう力を頂いた。　　正木文枝　記

ボタンネコノメソウ

ヤマネコノメソウ

タチツボスミレ
くずれそうな崖に咲いています

チャルメルソウ
花が楽しみです

セリバオウレン雄花

HANARE の庭のアセビが花盛り